

令和4年度 学校総合評価

6 今年度の重点課題に対する総合評価

再編統合により令和2年4月に新南砺福野高校が開設され、今年度でようやく3学年とも4学科7クラスがそろった。過去2年間と同様、新型コロナウイルス感染症対策のため数々の制限の中での活動を強いられた状況であったが、これまで経験を踏まえ規模の縮小や実施内容の精選など工夫を凝らし、全校生徒と教職員の意思統一のもと学習活動や学校行事に取り組むことができた。徐々にコロナ感染防止対策は緩和されている状況であり、従来の形式に近い活動が可能となってきたが、学校全体が危機感を保ちつつ活動を継続している。

5つの重点項目のうち、「学習指導（教科指導）」と「学校生活（生徒指導・健康管理）」の2つは、評価をAとした。生徒一人一台のタブレットが貸与され、授業や学習活動でのPCを活用する機会が増加した。また、使用頻度の増加や互見授業において他教諭の利用状況を参考にすることにより、その技量も向上してきている。また、面談を通しての生徒指導や健康・安全に関する情報提供、オンラインでの講演会、SNS利用に関するHRなどの取り組みは、心身ともに健康な生徒の育成につながっている。「進路支援（進路指導）」では、進路指導についての生徒の満足度が目標の80%を下回る項目があったが、資格や試験の合格率は例年通り高い結果が得られた。「特別活動（特別活動指導・読書指導）」については、工夫しながら殆どの学校行事を開催し、また、多くの部活動において全国大会、ブロック大会レベルの出場を果たすなど、多方面で生徒が活躍する様子を見ることができた。さらに、年14回のお便りの発行や図書委員の研修、体験型の教養講座の開催など活発な図書活動ができています。「その他（保護者や地域との連携）」については、総会は書面決議となったが、役員との座談会を通して保護者の思いや考えを把握した上で、年7回の会報の発行や研修会などのPTA活動を予定通り実施することができた。以上のことから、この3項目は評価をBとした。

今年度の取り組みの結果を総合的に考察することで、次年度の取り組みの更なる向上につなげていきたい。

7 次年度へ向けての課題と方策

今年度から、3学年とも普通科、国際科、農業環境科、福祉科の4学科がそろい、生徒数約750名の大規模校となった。「学び合い高め合おう」というスクールモットーにふさわしく、各学科の特徴、また、大規模校ならではの特色を生かしつつ、学習や部活動、特別活動等を通して主体的・意欲的そして協働的に取り組む生徒の育成を目指す。

学校の課題解決には、生徒と教職員が一丸となって取り組むとともに、保護者や地域の理解と協力が不可欠である。これまで地域に根ざした教育活動を行ってきた本校として、教育諸活動や生徒の活躍の様子などの情報共有を図りつつ、広く世界へ発信することを見据えた取り組みにも力を入れていく。

(様式5)

8 学校アクションプラン

令和4年度 南砺福野高校アクションプラン -1-		
重点項目	学習指導(教科指導)	
重点課題	教育クラウドやタブレットPCを活用した授業方法の実践研究 互見授業による教師の指導力向上とアクティブ・ラーニングの推進	
現 状	<ul style="list-style-type: none">・新教育課程や観点別評価の導入に伴い、実践を具体的に進めていく。・若手教員が多く赴任してきており、授業の進め方や授業課題の与え方などに不安を感じている教員も多く、経験のある教員から有効な助言や指導が希求とされている。・4学科が併設している本校の利点を生かし、他学科や他教科の授業を参観することで教員の授業の幅や質を高めていくことが必要である。教員自身が指導法を見直し、主体的・対話的で深い学びとなるよう絶えず工夫していくことが肝要である。全生徒がタブレットPCを1人1台持つことを効果的に生かす指導研究が求められる。ICT機器を活用した授業を行っている教員を中心に効果的な活用方法を実践研究するなど、活発な相互研修の実施が望まれる。	
達成目標	① 教育クラウドを活用した学習指導やタブレットPCを活用した授業を行った教員の割合	② 互見授業および校内外の研修会等に、教員一人あたりの参加回数
	① 80%以上	② 4回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none">・ICT機器の研修会を行い、基本操作を全教員ができるようにする。・各教科で授業での活用方法や問題点などを研究し、活用を推進する。・研究授業を行い、検討を通して指導スキルを高めていく。	<ul style="list-style-type: none">・授業公開期間を学期ごとに設定し、同じ教科だけでなく他教科・他学科の授業も参観しやすい環境を整える。・若手教員研修を企画し、先輩教諭の助言を継続して行う。・新教育課程やICT・新たな学び関連の研修会等の情報をグループウェアや連絡会で共有し、参加を呼びかける。
達成度	80%	教員一人あたり参加回数平均4.2回
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none">・生徒全員がタブレットPCを所有しており、授業の際のプレゼンテーションや課題提出等授業で積極的に活用している。・教員も年齢にかかわらず教材の投影に活用しており、白黒のプリントに比べ効果的である。	<ul style="list-style-type: none">・今年も授業公開期間を設定し、教科外の授業も積極的に参観するよう呼びかけを行った。・若手教員と先輩教員とでペアを組み、学習指導等の研鑽を図った。・研修会の案内や先進的な取り組み事例などは教員へ案内をした。
評価	A	<ul style="list-style-type: none">・教員も生徒も授業やその他の活動でタブレットPCの使用機会が増えた。教員は授業において教材としてプレゼン画像を投影して行うなど、授業効率も向上した。・互見授業により互いの授業実践を評価することで、自己の授業実践を振り返ることができた。
学校関係者の意見	新型コロナの影響もあって、大学等でも高校と同様にタブレット活用が広がっている。他の教員や他教科の授業を見学することはよい試みであると思われ、大学等でも見習いたい。	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none">・生徒に対するネットリテラシー教育が改めて必要である。・互見授業は今後も継続して実施したい。さらに、合評会などの研修を各教科で行うよう働きかけたい。	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:やや不十分だった D:不十分だった)

令和4年度 南砺福野高校アクションプラン - 2 -

重点項目	学校生活（生徒指導・健康管理）	
重点課題	福高生として誇りを持ち、自ら考え、判断し行動する資質の育成	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・怠惰による遅刻は減少しているが、心身の不調により遅刻する生徒は増加している。 ・スマホやインターネットなどを長時間使用することで、生活のリズムを崩す生徒が増えてきている。 ・感染症予防への具体的対策として、身近な学習環境を整備するなど対応力を育成する必要がある。 	
達成目標	① 心身の不調により、遅刻が3回以上の生徒に対する面談の実施	① 生徒に健康・安全・感染症予防に関する情報を提供する回数
	② 面談の実施率 100%	② 年間10回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の出席状況を確認し、教育相談室、学年、教科担当との連携を密にして生徒支援に努める。 ・SNSの利用について、自律を促す取り組みを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の健康・安全に関する意識の高揚を図るため保健厚生委員会と連携して講演会等を企画する。 ・「保健だより」等で、生徒が健康問題に適切に対処するための情報を適宜発信する。
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ① 心身の不調による遅刻が3回以上の生徒に対する面談の実施 ③ 3人/4人 (達成度 75%) 	<ul style="list-style-type: none"> ① 全校1・学年別2対象の講演会を感染防止対策としてオンラインで実施した。 ④ 感染症に対する情報提供13回 (達成度 95%)
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・各学期末の生徒アンケートで相談を希望する生徒には、SCとの相談機会を可能な限り設け、生徒支援に努めた。 ・問題を抱える生徒に対するケース会議を行い、チームで支援する体制を整えた。 ・1、2学期に統一HRを設け、各クラスでネットやSNSの利用について、時間や個人情報情報の取扱いなどのネットルールを決めた。振り返り週間の中で、事後アンケートを行い、その結果をクラス内で共有することで、生徒の自律を促した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心の健康に関する講演会、性に関する講演会、薬物乱用防止の講演会を実施 ・健康観察表付き感染症対策についての配布(11回) ・新型コロナウイルス対応の保健だよりの配布、掲示(2回) ・生徒保健厚生委員会による保健だよりの発行(6回) ・コロナ予防動画の作成 ・昼食時、密を避けるため特別教室を利用。生徒保健厚生委員会による換気、手洗い、黙食呼びかけの放送。教員による教室、食堂の巡視。 ・文化展での生徒保健厚生委員会による、「がん」についての展示
評価	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒との面談を通して、社会性を育む支援を行うことができた。 ・ネットやSNSの利用に関するHR活動を、生徒の自律を促す取り組みとして実施することができた。 ・新型コロナウイルス感染防止対策をとりながら、生徒向け講演会を新たにオンラインという方法で実施することができた。 ・生徒の感染予防への意識を保ち続けさせることに尽力した。
学校関係者の意見	コロナ感染拡大防止策については、しっかり行われているようで感染拡大が抑えられており、先生方の苦勞が伺われる。	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・怠惰による遅刻の生徒数は少ないが、生活リズムの乱れにより、心身の不調等を訴える生徒に対する面談は効果があるので引き続き行う。 ・スマホやインターネットなどを長時間使用することで、生活のリズムを崩す生徒がみられるので、ネットやSNSの適切な利用について、自律を促す取り組みを継続する。 ・新しい情報に敏感になり、新型コロナウイルスへの対応の変化があれば、即対応できるように学校生活でのよりよい対応策を学校全体で考える必要がある。 	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：やや不十分だった D：不十分だった)

令和4年度 南砺福野高校アクションプラン - 3 -

重点項目	進路支援（進路指導）	
重点課題	総合的な探究の時間や進学講話・進路セミナー等行事の充実（普・国・農・福） 生徒への情報提供や面接の充実（普・国・農・福） 検定資格の取得に向けた意識の高揚と合格者数の増加（国・農） 受験者全員の介護福祉士国家資格取得（福）	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 多様化していく生徒達に対して、個々に見合った対応など指導の工夫が必要である。 広く多くの情報の中から自己の将来像を描いてほしいが、生徒個人で新しい情報を探すことは困難であるため、より効果的な情報提供や面接指導が必要である。 国際科では、「読む・聞く・話す・書く」の4技能をバランスよく伸ばし、活用できるコミュニケーション能力を育成するために、授業内でプレゼンテーション、エッセイ、スピーチ、ディベート、ディスカッションなどの活動を積極的に行っている。また、4技能の伸びを測定するために、毎年全員GTECを受験し、さらに、多くの生徒が英検に挑戦している。 農業環境科では、農業技術検定・危険物取扱者は全員、測量士補・造園施工管理技術検定は類型別に全員を目標に学習し、余力のあるものはさらに各自で資格取得に挑戦しているが、各資格において知識が定着しない生徒もいる。 福祉科では、平成26年度入学生より、在学中（3年の1月）に介護福祉士国家試験を受験することが可能となり、平成28年度より国家試験を受験している。合格率は、平成28年度卒業生が96.6%、平成29年度から令和3年度の5年間は100%を達成している。福祉科3年間の学びの集大成として国家試験合格を目標に掲げる生徒が多く、生徒の目標を実現させるための指導・支援を継続していく必要がある。 	
達成目標	① 以下の観点での生徒の満足度 <ul style="list-style-type: none"> 先生は生徒の学力向上を目指して努力している。 進路の面接がよく行われている。 進路に関する情報が豊富である。 進学講話・学年集会は進路を考える上で役立っている。 「総合的な探究の時間」は進路を考える上で役立っている。 	② 卒業時に英検2級相当以上の英語力を身につけている生徒の割合（国際科） ③ 全国に通用する各種資格・検定に3つ以上取得の生徒の割合（農業環境科） ⑤ 資格試験の合格率（福祉科）
	① 80%以上	② 100%（国際科） ③ 100%（農業環境科） ④ 介護福祉士国家試験100%（福祉科）
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 進路セミナーや大学・企業研修を効果的に活用する。 進路に関する集会や面接を充実させる。また、「総合的な探究の時間」を効果的に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合実習、外部講師の授業、インターンシップ、職業講話等で、進路意識の高揚を図る。 目標を持って資格試験に向かうよう指導法を工夫し、学習習慣を身につけさせる。 関連科目の担当者同士の連絡を密にし、学習内容や生徒の理解度等の把握に努め、適切な課題等に取り組ませる。 介護福祉士国家試験の過去問から出題傾向を把握し、生徒の実態に応じた授業改善を行う。 土曜特別講座で外部講師による受験対策を行う。
達成度	①進路に関するアンケートより <ul style="list-style-type: none"> 5項目の平均 (81.9%) 学力向上に向けての先生の努力度 (94.2%) 進路についての面談回数の満足度 (78.8%) 進路についての情報の豊かさ (78.5%) 進路における進路講話の貢献度 (79.2%) 進路における探究の時間の貢献度 (79.0%) 	②国際科で英検2級相当(GTEC960)以上の英語力を身につけている生徒は、クラス全体の46.7%であった。 ③農業環境科で3つ以上の資格を取得した生徒は3年100%、学科全体として66.7%であった。 ⑤ 介護福祉士国家試験合格率は未定（合格発表は3月24日）

<p>具体的な 取組状況</p>	<p>①保護者や卒業生以外に新たにとなみ青年会議所の方を講師に招いた1年進路セミナー(全学科)16講座を開講し、一人2講座を受講した。 1学年普通科・国際科の生徒対象に、南砺市バスツアーを実施した。 各学年とも保護者懇談会を実施し、進路のしおり等を懇談会で活用した。 富山大学と富山県立大学の大学出張講座(13講座)に、延べ2学年184名・3学年5名の生徒が参加した。 外部講師の進学講話を各学年1回実施した。 各学年とも保護者懇談会を実施し、進路のしおり等を進路懇談会等で活用した。</p>	<p>②資格取得に向け、授業の冒頭にスピーキング、長期休業中に補習、個別に面接練習を実施した。また、定期的に外部講師を招聘した。 ③農業環境科の生徒に資格取得に対する意識を入学時より高く持たせ、危険物取扱者や日本農業技術検定等の資格取得に挑戦できた。 ④適切な課題を明確に提示して確実にこなすよう指導した。また、模擬試験を定期的に行い、生徒の苦手分野を把握した上で指導を行うよう努めた。</p>
<p>評価</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・南砺市バスツアーにより、南砺市の企業に関する生徒の興味関心が増加した。 ・1学年の進路セミナーにより、職業を含めた進路に関する内容を深めた。 ・進路に関する資料は、生徒・保護者の進路に関する知識を深めることに貢献できた。 ・大学出張講座により、大学の研究内容を知ることにつながり、進路選択に役だった。 ・外部講師の進学講話を各学年1回実施することで、進路に関する知識を深めた。
<p>学校関係者の意見</p>	<p>家庭での教育の大切さを痛感させられる。進路以外においても様々な悩みから、心身の不調を訴える生徒がいると思われるが、今後、生徒たちをたくましく育てる手法を工夫してほしい。 英語力を身につける方策として、実用英語検定とGTECを利用しているようだが、大学等ではTOEICやTOEFLが主流であり、活用を検討してはどうか。</p>	
<p>次年度へ 向けての 課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各進路行事について、生徒の実態に合わせた効果的なものになるように工夫する。 ・進路結果を精査し、朝学習や志学会、家庭学習等で取り組む内容を見直すことで、生徒の学習意欲や理解度等を把握し、効果的かつ確実な学習指導を考える。 ・最初の国際科の卒業生の状況から、達成目標を再検討する。 	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：やや不十分だった D：不十分だった)

令和4年度 南砺福野高校アクションプラン - 4 -

重点項目	特別活動（特別活動指導・読書指導）	
重点課題	自主態度と思索する心の育成	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・全校生徒の 95%が部活動に加入し、精力的に活動を行っている。県レベルを超える大会等に出場する団体数はここ数年 15 団体を超えている。今年度、2クラス増で、新入部員も増え、ますます活発に活動を行うことが期待される。 ・コロナによる、部活動の活動時間の縮小や、部活動停止の中、各部活動が感染症対策を工夫しながら活動し、活動内容の充実に努めている。 ・学校行事を始めとする特別活動もコロナの影響で縮小中止が余儀なくされる中、なるべく実施できるよう、工夫を凝らしている。 ・読書指導では、読書会を行うことで、普段読まないジャンルの本を読む機会を増やすように努めている。昨年度は6クラスがHRでビブリオバトルに取り組んだ。終了後に行ったアンケートでは、92%が「楽しかった」、79%「読みたい本があった」と回答した。読書への興味を引き出せる活動であり、今年度も取り組む。 ・生徒に読ませたい本や購入したい本が多数あるが、閲覧室は新しい本を置く余裕がなく、書庫も空きスペースがない状況で、蔵書の除籍・廃棄を進める必要がある。 	
達成目標	① 県レベルを超える大会等への出場団体数	② 情報発信 ③ 蔵書の除籍・廃棄
	① 15 団体以上（全国大会レベル5 団体以上）	② お便り（「啓明館だより」、「はばたき」、「啓明」）の発行 年14回 ③ 図書原簿のデータ化の完成
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でも、活動できるように工夫し、部活動の充実・活性化を図る。 ・外部講師招聘や情報収集、様々な通信機器の利用等で、指導法・練習内容のレベルアップ、生徒のモチベーションアップを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新刊書等の情報が生徒に伝わりやすいように、お便り（印刷物）の発行に加えて、ポップ作成と掲示による視覚的な広報活動を進める。 ・効率的に蔵書の除籍・廃棄に取り組むために、図書原簿のデータ化を進め、廃棄する。
達成度	県を超える大会出場 15 団体、全国大会6 団体	② お便りの発行 年14回（予定） ③ 図書原簿のデータ化は予定通り進んでいる。
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の活動制限も緩和されており、活動自体は昨年度より充実・活発化していると考えている。強化練習や講師招聘なども、これまでよりも増えてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・すべてのクラスで読書会またはビブリオバトルを1回実施した。 ・お便りの発行は予定通りの発行14回になる予定である。（既に13回作成） ・昨年からの事業として南砺市立図書館との連携事業で図書委員の研修（『日本十進分類法』で調べもの体験』等）を行った。 ・例年の2回の教養講座に加えて、教養講座『豆本をつくろう』を実施した。
評価	B	<ul style="list-style-type: none"> ・目標であった県大会以上15 団体（全国大会5 団体）はクリアできたが、昨年度全国大会出場は8 団体あったので、もう少し頑張れたのではないかと思います。 ・昨年からの南砺市と連携事業で図書委員に対する研修が今年度も実施されて良かった。コロナ禍の中お便りが予定通り発行できた。 ・図書原簿のデータ化は進んでおり、蔵書の除籍・廃棄については、年度末に一部実施。
学校関係者の意見	日ごろから本に慣れ親しむことは重要である。読書指導の一つとして、速読などの本の読み方、技術なども指導してはどうか。	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ前とほぼ同じように活動できるようになってきており、強化練習や合宿等の実施等、各部活動の活動内容を見直し、改善することによって、学校全体の部活動の活発化を図る。各学校行事においても、内容を吟味・改善して、コロナ前のものに近づけるようにする。 ・読書習慣を身につけるには1年生時の取り組みが重要なので、読書会など1年クラス担任との連携をいかに図るか。 	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：やや不十分だった D：不十分だった）

令和4年度 南砺福野高校アクションプラン - 5 -

重点項目	その他(保護者や地域との連携)	
重点課題	保護者と連携・協力のもと、開かれた学校づくり	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大防止のためPTA総会や大学視察研修会などの実施が困難な状況が続いている。このためPTA役員の方々と話し合い、密にならないような工夫をしてwith コロナでのPTA活動を模索していく必要がある。 広報誌や情報ツールなどを活用して、保護者の方々にPTA活動や学校についての関心の高揚を図り、相互の連携向上を図る必要がある。 	
達成目標	① ホームページの情報更新や内容充実 ① 各種委員会への役員出席率 70%	② 学校について関心の高揚 ② 福高だよりの発行 8回
方 策	<ul style="list-style-type: none"> PTA便り「いわお」で情報を伝える。 ホームページでの情報提供や更新回数を向上させる。 福高メールでの情報提供の充実を図る。 PTA研修会で、魅力的な講師を招聘する。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に部会を行い、計画的に進める 保護者が興味、関心を持てるよう内容を精査する。 保護者アンケートをとり、関心度を調べる。(1, 2学期保護者会時)
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ホームページをリニューアル 役員出席率 70% 	<ul style="list-style-type: none"> 福高だより発行回数 7回
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> PTA会報「いわお」を7月と12月の2回発行した。第2回では食堂の活性化の特集を行った。 PTA研修会ではパナソニックエンターテイメント&コミュニケーション社長の豊嶋明氏を招き、講演会を行い好評であった。 本校ホームページをリニューアルし、スマホ対応とした。大雪での緊急連絡などもスムーズに行えた。 各委員会では書面での連絡や委員長さんとの事前打合せを行うことで、限られた会合時間の中で効率よく協議や情報共有することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 総務部会を行事ごとに実施し、仕事の分担を行った。卒業式や始業式などの行事を全校生徒が参加できるような方策を検討した。 保護者や中学生対象の行事では、各教室に分散してオンラインで映像を配信するなど、コロナ禍でも行える形式を考え実施した。 福高だよりの発行は、7回行った。時期ごとの学校行事などを取り上げ、学校での活動の様子が保護者にわかるよう心がけた。ただPTA会報「いわお」と発行時期が重なり、発行が遅れた回があった。
評価	B	<ul style="list-style-type: none"> PTA会報の発行やPTA研修会を予定通り実施できた。PTA総会は書面決議となったが、役員会や各委員会の活動には多くの方に参加していただいた。 食堂活性化のアンケートは生徒のみオンラインで行い、保護者はできなかった。PTA役員の座談会を通して、保護者の思いを確認できた。
学校関係者の意見	コロナ禍であるが、先生方の手際がよく、非常に段取りよく行事を実施することができた。引き続き、活発なPTA活動をお願いしたい。	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> 保護者が参加する行事では、PTA役員の協力を得ながら、より参加意欲を高める。 アンケートやPTA活動を通じて、保護者の意見を十分に聞き取れるようにする。 PTA役員の負担が過度にならないよう、総務部会で精査し行事をすすめる。 コロナ禍で行えなかった行事について、復活や実施形態の検討を役員会で行う。 	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:やや不十分だった D:不十分だった)